

25. オーストラリアの森林火災

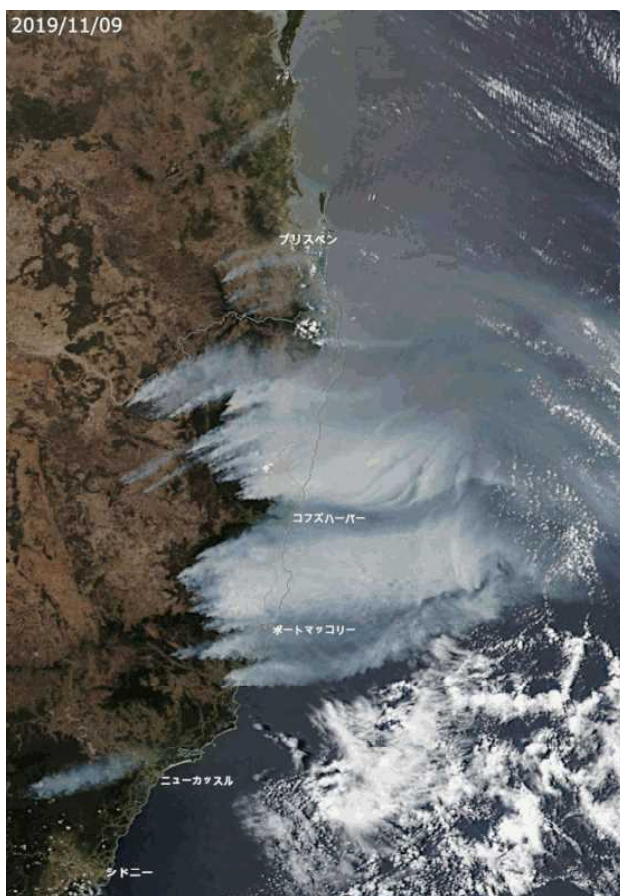
90歳で亡くなった父が、平成元年11月の80歳のときに、地元の長寿会の会報に書いた「雑感」と題する短文を読む機会があった。幾つかの思い出を述べ、現在との比較を行ったもので、よくあるパターンなのかも知れないが、この文章の最後の部分は次のようなものであった。今から30年前のことだ。

「戦後科学の進歩は文化の向上となり、その止まる所を知らない。一方乱開発、森林の乱伐は緑を失い、排気ガスの害、さては地球の温暖化、これらによって地球が危い。ついには人類滅亡の時が来るのではないか。環境保全は世界的な問題となっている。これから先どんな世の中になって行くのか、私達の想像も出来ない世界が展開されることだろう。長生きをして変り行く世相を見守りたいと思う」

今年1月27日の東京新聞の社説は「山火事と温暖化 気温が3度上がったら」と題して、冒頭「今この瞬間にも広がり続けるオーストラリアの森林火災。日本の広さの半分近くを、のみ込んだ。気象学者は『気候危機との関係は疑いようがない』という。そして『あれが未来の地球の姿だ』と」と述べている。なにやら30年前に父が書いた世界に一直線に近づいているような気がする。

オーストラリアでは毎年のように森林火災が発生している。昨年9月頃から続く今問題の森林火災は首都キャンベラの近郊にまで及ぶ勢いで、30人近くの人が亡くなっている。特に前年は平均降水量が観測史上最も少なく、空気が乾燥し、平均気温も過去最高を記録し、12月には記録的な熱波が到来するなどで火災が発生・拡大しやすい条件が整っていた。テレビで、油分を多く含んで燃えやすいユーカリの木が沢山あるのも影響していると報じているのを見たこともある。希少な固有種を含む12億匹以上の動物たちが犠牲になり、やけどを負ったコアラが水を求める姿がテレビに映るようになった。社説は「もともとの原因は、落雷とみられるが、ここまですべて被害を大きくしたのは、温暖化の影響だ」と言い切る。前述の降水量や乾燥が森林火災を悪化させているというのだ。

今までオーストラリアの森林火災は、場所的には何となく1ヶ所か多くても数ヶ所くらいで、その規模が大きいものと思っていたが認識不足だった。同時多発的ということを知った。特にオーストラリアの南東地域の海岸に近い所が被害が



大きいように思われる。ネットで「宇宙からとらえたオーストラリア南東部の大規模な森林火災」の衛星写真を見た（前ページ写真(注)、下方がシドニー）。多くの地点の煙が凄まじい。

この火災についてシドニー大学の教授は、「現在直面している全国的な森林火災の危機は前例がない。非常に大規模で広範囲かつ長期にわたる火災が発生している」としてオーストラリア史上最悪の森林火災が起きているとの見解を示し、「気候変動と森林火災が広がる条件の間には、明らかなつながりがある。地球規模の気候変動の問題に根本的に対処しないと、森林火災のリスクに対応できなくなるだろう」と述べている。

この火災に対応すべくアメリカ、カナダ、フランス、日本なども協力しているが火災の大きさ深刻さに比べてどうなのだろうか。日本の場合、1月15日に航空自衛隊C130を2機派遣するとして隊員約80名が小牧基地（愛知県）を出発している。

そして、オーストラリアのモリソン首相は1月5日に、今後数ヶ月は続くと警告している。大規模な森林火災は燃え続けるということだ。

件(くだん)の社説は次のようにもいう。

「森林火災の凶暴化は、オーストラリアだけではない。ブラジル・アマゾン川流域の熱帯雨林では昨年1月から8月にかけて、45,000件近い火災が起きた。世界気象機関(WMO)は(世界的な温度上昇の影響で)ハバナや日本では、壊滅的な台風やサイクロンの被害が発生し、北極やオーストラリアでは森林火災が発生した、と指摘する。森林火災の影響は、生態系の破壊だけにはとどまらない。森林は二酸化炭素(CO₂)を吸収、固定する役割を果たしている。森が焼ければ、それらが一気に放出される。(略)現状のままでは、世界の平均気温は産業革命前より三度以上上昇し、未知の大災害が頻発するようになるというのが、もはや科学の常識だ」

大規模な森林火災や壊滅的な台風やサイクロンの発生が日常的に起きるのが、未来の地球の姿だというのが、既に日本は異常な集中豪雨や台風の被害を毎年受けるようになってきている。

温暖化対策は喫緊の課題だが、世界の指導者の足並みが揃わないのは嘆かわしいことだ。

あちらこちらで森ゆらゆらと燃えてをり 燃え残るべきものを探して (川野里子)
宇宙から見る新林の大煙は 湯気とは違う地球の未来 (峰山)

(注) <https://astropics.bookbright.co.jp/australia-fires-2019> より

(2020年1月29日)